

LOVE

「愛こそ世の光 さかえあれ!」

—オペラ“TURANDOT”北京初公演へのお誘い—

「トゥーランドット」北京初公演を祝って



東京芸術大学オペラ科教授
指揮者

大町 陽一郎

今年はアジアに平和がもたらされて50年目の年に当たります。この意義ある年にイタリアの有名なオペラ作曲家・プッチーニが北京を舞台にして作曲した歌劇「トゥーランドット」を北京歌劇院の協力を得て当地で上演できることは、誠に喜ばしいことであります。

広大な中国にはいろんな民族があり、いろんな音楽があるということを、このオペラは示しています。そして、トゥーランドット姫がオペラの最後で、タートルの王子カラフの愛を得て、「愛こそ世の光 さかえあれ!」と民衆が二人の幸せを讃えるシーン、愛の謳歌、アジアの平和を希う印象的な場面といえましょう。

祝 辞

(株) 東機貿代表取締役社長
佐多 保彦

「“TURANDOT”を北京で指揮することが僕の夢なんですよ…」

世界的なオペラ指揮者・大町陽一郎氏がふともらされたこの言葉に、私が強く心を動かされたのは昨年のことでした。私は大町先生のファンであると同時にプッチーニの大ファンですので、“TURANDOT”が北京で上演できれば何とロマンチックで感動的なことであろうと考えました。これはプッチーニ自身が最も望んでいたことでしょう。彼の死後70年を経て、それが実現するのです。

大町先生と共に中国人スタッフによる、北京初公演の歴史的瞬間に立ち会える感激を皆様と共に分かち合いたいと思います。

ブルゴーニュにて『別冊少女フレンド』読者レポーターたち



書在「TURANDOT」北京首演文前

中国中央歌劇院院長
作曲家
王世光

この度中央歌劇院は、プッチーニのオペラ「トゥーランドット」をイタリア語で上演いたします。

中央歌劇院は開設43年、これまで40篇あまりの内外のオペラを上演してきましたが、この公演によって中日芸術家交流に新たなページを加えることができるでしょう。

プッチーニはアジアを愛し、日本と中国の音楽を学んで、「マダム・バタフライ」と「トゥーランドット」を書きました。中で最も素晴らしい音楽は、愛に献身した女主人公にささげられています。

日本の皆様が北京に来られ、このオペラをご覧になりますことをお待ちしております。

クイズに答えてオペラに行こう! (’95年11月16日～21日)

往復航空券・3泊宿泊券・オペラ鑑賞券プレゼント!!

日中の芸術家によるイタリア最大のオペラ「トゥーランドット」北京公演。この公演に東機貿創業40周年を記念して、“VITALITE”読者5名をご招待します。オペラのヒロイン、美しくも冷酷なトゥーランドット姫は、並みいる求婚者に3つのクイズを出し、答えられない男を次々と死刑に処します。これに因んで以下のクイズにお答え下さい。

- ①『トゥーランドット』の作者プッチーニが書いた、日本の長崎を舞台にしたオペラの題名は?
- ②姫の居城・紫禁城の門前にある、100万人を収容できるという広場の名前は?
- ③販売台数6000台に迫る東機貿のベンチレータ(人工呼吸器)の名前は? クイズの正解者の中から抽選で5名の皆様に、北京旅行とオペラ鑑賞券が当たります。

ご希望のかたは、官製はがきに上記クイズの答と応募の動機、住所、電話、番号、氏名、年齢、職業を明記のうえ、ページ左端の40周年マークを貼って、〒140 東京都品川区勝島1-5-21東神ビル2F(株)東機貿コミュニケーション部オペラ懸賞係までご応募下さい。お問い合わせはTEL5762-3004まで。締め切りは9月末日。発表は10月初旬。当選者に直接ご連絡します。尚、同ツアーも企画しています。

講談社・『別冊少女フレンド』が

シャトー・ド・シャイイ(フランス ブルゴーニュ)に読者8名を派遣

講談社(東京・文京区)の中高校生向け漫画雑誌『別冊少女フレンド』は、創刊30周年記念企画として、フランス特派員を募集した。応募総数2800通。同誌の人気作家・前田あやえさんが描く漫画の主人公のような自分自身の体験談を書いた。

幸運を射止めた8名は、前田さん、料理研究家の脇雅世さんと共に、夏休みの10日間、パリとブルゴーニュに取材旅行した。ブルゴーニュでは、シャトー・ド・シャイイに滞在して、観光やピクニック、料理教室の他、当地の同世代たちとの交流会も。「取材レポート」は11月ごろ発表の予定。

出発日の7月29日、女子高校生たちは「フランスの田舎って、日本とちがうのかな?」「美術館が楽しみ」「ショッピングがしたい」とウキウキ。送る親御さんたちは「かわいい子には旅」「若いうちこそ異文化体験を」とニコニコ顔だった。